問1

ケーススタディ

これはケーススタディです。ケーススタディは個別に時間が設定されるわけではありません。各ケースを完了したいだけ試験時間を費やすことができます。ただし、この試験には追加のケーススタディやセクションが存在する場合があります。この試験に含まれるすべての質問を指定された時間内に完了できるように時間を管理する必要があります。

ケーススタディに含まれる質問に答えるには、ケーススタディで提供される情報を参照する必要があります。ケース スタディには、ケース スタディで説明されているシナリオに関する詳細情報を提供する展示やその他のリソースが含まれる場合があります。このケーススタディでは、各質問は他の質問から独立しています。

このケーススタディの最後に、レビュー画面が表示されます。この画面では、試験の次のセクションに進む前に、回答を確認し、変更を加えることができます。新しいセクションを開始した後は、このセクションに戻ることはできません。

ケーススタディを開始するには:

このケーススタディの最初の質問を表示するには、「次へ」ボタンをクリックします。質問に答える前に、左側のペインのボタンを使用してケーススタディの内容を調べてください。これらのボタンをクリックすると、ビジネス要件、既存の環境、問題の説明などの情報が表示されます。質問に答える準備ができたら、「質問」ボタンをクリックして質問に戻ります。

背景:

City Power and Light は、北米最大のエネルギー会社の 1 つです。彼らは石油を抽出し、生産し、輸送します。同社は、米国、カナダ、メキシコに 50 以上のオフィスと 100 か所以上の石油抽出施設を持っています。彼らは鉄道、トラック、パイプラインを利用して石油とガスを施設から輸送しています。

同社は以下のサービスを提供しています。

* 安全、責任、確実にオイルサンドからオイルを生産します。

* 原油を高品質の製品に精製します。

※風力発電施設の開発・管理。

* 石油をさまざまな国/地域に輸送します。

City Power and Light は、さまざまな Microsoft ソフトウェア製品を使用して、日々のアクティビティを管理し、マシンに不可欠なアプリケーションを実行します。

メンテナンスタスク:

Admin1 という名前のユーザーは、ManagePipelineMaintenanceTasks という名前のクラウド フローを作成します。 Admin1 は、データ損失防止 (DLP) ポリシーをフローに適用します。 Admin1 は、共同所有者として PipelineManager1 という名前のユーザーとフローを共有します。 PipelineManager1 が実行できるアクションを決定する必要があります。

メンテナンススケジューラ:

デスクトップ フローを使用するクラウド フローを作成します。デスクトップ フローはサードパーティのサービスに接続して情報を取得します。デスクトップ フローの実行を 20 分を超えて許可しないでください。

次の要件を満たすように、MaintenanceScheduler の共有を構成する必要があります。

* User1 は、あなたと協力してデスクトップ フローを変更できる必要があります。

* User2 は、フローの実行履歴にアクセスして確認できる必要があります。

* デスクトップ フローを実行するが変更しない権限を User3 に付与する必要があります。

ERPDataOperations フロー:

City Power and light はエンタープライズ リソース プランニング (ERP) システムを使用しています。 ERP システムには API がありません。

会社は毎日、添付ファイルを含む電子メールを受け取ります。添付ファイルには、同社の鉄道輸送パートナーからの注文がリストされています。電子メールの内容を読み取り、ERP システムにレコードを書き込む自動化ソリューションを作成する必要があります。ソリューションは、クラウド フローからデスクトップ フローに資格情報を渡す必要があります。

問1

RailStatusUpdater:

City Power and Light は、輸送中のすべての製品を積極的に監視します。会社の製品を輸送する鉄道との通信を管理する RailStatusUpdater という名前のフローを作成する必要があります。 RailStatusUpdater には 5 つのデスクトップ フロー アクションが含まれています。

テスト中はデスクトップ フローを有人モードで実行する必要があります。ソリューションを展開した後、デスクトップ フローを無人モードで実行する必要があります。管理上の労力を最小限に抑える必要があります。

包装：

自動化をソリューションにパッケージ化する必要があります。必要なコンポーネントはすべてソリューションに含める必要があります。

ProductionMonitor フロー:

「手動でフローをトリガーする」トリガーを使用する ProductionMonitor という名前のクラウド フローを作成します。 ProdManager という名前のクラウド フローから ProductionMonitor をトリガーする予定です。

ProdManager に「子を実行」フロー アクションを追加して、ProductionMonitor をトリガーします。 ProdManager を保存しようとすると、次のエラー メッセージが表示されます。

XRM API へのリクエストがエラーで失敗しました: 'メッセージ: フロー クライアント エラーがステータス コード "不正なリクエスト" と詳細 "("エラー" とともに返されました:

{"code":ChildFlowUnsupportedForinvokerConnections", "message": FlowA という名前の ID 8d3bcde77e98eb11b1ac000d3a32d53f のワークフローは、子ワークフローとしては使用できません。子ワークフローは埋め込み接続のみをサポートしているためです。 "}}"コード" 0x80060467 内部エラー。'

容量計画フロー:

社内の開発者は、フローを使用してオンプレミスのキャパシティ プランニング システムのデータにアクセスします。

オンプレミス データ ゲートウェイが毎日処理するトラフィック量が大幅に増加していることがわかります。ゲートウェイの障害を最小限に抑える必要があります。

データコレクターのフロー:

Web フォームと対話するデスクトップ フローがあります。このフローはフォーム上の複数のフィールドにデータを書き込む必要があります。
このフローをテストしています。 Webフォーム上の任意のフィールドにデータを書き込みます。

RailStatusUpdaterフロー：
RailStatusUpdaterフローは、マシン接続エラーにより時折失敗します。通常、クラウドフロー実行を再送信することで、デスクトップフローを完了できます。マシン接続エラーが発生した場合にクラウドフローを手動で再送信する必要がないように、再試行プロセスを自動化する必要があります。

フローの問題を解決する必要があります。
目標を達成するための2つの方法は何ですか？ 正解はそれぞれ完全な解決策を示しています。

【選択肢】

A. エラーが発生した場合でもフローの実行を続行するには、Web ページの「テキストフィールドに入力」アクションを構成します。

B. Web ページのテキスト フィールドにデータを入力するアクションを、データを書き込むためのキーを送信するアクションに置き換えます。

C. テキスト フィールドにデータを書き込むアクションの前にある Web ページ アクションで、フォーカス テキスト フィールドを削除します。

D. Web ページにフィールドが存在するかどうかを判断し、true の場合にのみデータを書き込むアクションが含まれている場合を追加します。

E. フィールド属性が正しくマップされるようにセレクターを変更します。

問1（解答）

D. Web ページにフィールドが存在するかどうかを判断し、true の場合にのみデータを書き込むアクションが含まれている場合を追加します。

E. フィールド属性が正しくマップされるようにセレクターを変更します。

【解説】

◆正解の理由：

D：Web ページにフィールドが存在するかどうかを確認する条件を追加することで、フィールドが存在しない場合に書き込みを試みることを防ぎ、エラーを回避できます。

E：セレクターが正しくない場合、デスクトップフローは正しいフィールドを認識できず、書き込みに失敗する可能性があります。セレクターを修正することで、正しいフィールドにデータが書き込まれるようになります。

◆不正解の選択肢の補足説明：

A：エラーが発生した場合にフローを続行する設定は、エラーの根本原因を解決するものではありません。エラーが頻繁に発生する場合、このオプションは問題を隠蔽するだけで、実際のエラーを特定して修正することができません。

B：キー送信アクションは、テキストフィールドへのデータ入力をシミュレートする別の方法ですが、Webフォームとの対話で問題が発生する根本的な原因に対処するものではありません。

C：フォーカステキストフィールドを削除することは、Webページとの対話で問題が発生する根本的な原因に対処するものではありません。

問2

自動化をパッケージ化する必要があります。

どうすればいいでしょうか？

【選択肢】

A. ソリューション内の依存関係を表示します。

B. 管理されていないレイヤーを削除します。

C. 既存のコンポーネントをソリューションに追加します。

D. ソリューション内の各項目に必要なコンポーネントを追加します。

問2（解答）

D. ソリューション内の各項目に必要なコンポーネントを追加します。

【解説】

◆正解の理由：

Power Automateの自動化をパッケージ化するには、ソリューションを作成し、そのソリューションにフローや接続参照など、自動化に必要なすべてのコンポーネントを含める必要があります。これにより、自動化を別の環境にエクスポートおよびインポートできます。

◆不正解の選択肢の補足説明：

A. ソリューション内の依存関係を表示します：依存関係の表示は、必要なコンポーネントを特定するのに役立ちますが、それだけでは自動化のパッケージ化は完了しません。

B. 管理されていないレイヤーを削除します：管理されていないレイヤーの削除は、ソリューションの管理とカスタマイズを容易にするためのものですが、パッケージ化の直接的な手順ではありません。

C. 既存のコンポーネントをソリューションに追加します：既存のコンポーネントの追加は正しい行為ですが、それだけでは不十分です。ソリューション内の各項目に必要なすべてのコンポーネントが含まれていることを確認する必要があります。

問3

ERPDataOperations フローのソリューションを構成する必要があります。

どの設定値を使用する必要がありますか?回答するには、回答エリアで適切なオプションを選択してください

①使用するトリガーの種類

②デスクトップフローで認証情報にアクセスするために使用する変数の種類

【選択肢】

A. 新しいメールが届いたとき

B. 新しいイベントが作成されたとき

C. 新しい行が作成または変更されたとき

D. 新しいアイテムが作成または変更されたとき

E. 設定

F. 入力

G. 出力

H. 作成

問3（解答）

①：A. 新しいメールが届いたとき

②：F. 入力

【解説】

◆正解の理由：

① ERPDataOperationsフローがメール受信をトリガーにしている場合、「新しいメールが届いたとき」が適切なトリガーの種類となります。

② デスクトップフローで認証情報にアクセスする場合、Power Automateフローから認証情報を入力として渡す必要があるため、「入力」変数が適切です。

◆不正解の選択肢の補足説明：

B. 新しいイベントが作成されたとき： イベントの作成は、ERPDataOperationsフローのトリガーとして直接関係するとは限りません。

C. 新しい行が作成または変更されたとき： スプレッドシートやデータベースの行の変更をトリガーにする場合に使用します。ERPDataOperationsフローでメールをトリガーにする場合は不適切です。

D. 新しいアイテムが作成または変更されたとき： SharePointリストなどのアイテムの変更をトリガーにする場合に使用します。ERPDataOperationsフローでメールをトリガーにする場合は不適切です。

E. 設定： 変数の種類としては不適切です。設定は、フロー全体の設定やコネクタの設定などを指します。

G. 出力： デスクトップフローからPower Automateフローに値を返す場合に使用します。認証情報へのアクセスには不適切です。

H. 作成： 変数の種類としては不適切です。変数の作成時に使用する言葉ですが、変数の種類そのものを指すわけではありません。

問4

PipelineManager1 が実行できるアクションを特定する必要があります。

PipelineManager1 が実行できる 3 つのアクションはどれですか? それぞれの正解は完全な解決策を示します。

【選択肢】

A. クラウド フローの優先度を設定します。

B. フローを変更または削除します。

C. 他の所有者を追加または削除します。

D. DLP ポリシーをオーバーライドします。

E. 所有者の接続認証情報を変更します。

F. 実行履歴を表示します。

問4（解答）

B. フローを変更または削除します。

C. 他の所有者を追加または削除します。

F. 実行履歴を表示します。

【解説】

◆正解の理由：

フローの所有者は、フローの変更や削除、他の所有者の追加や削除、実行履歴の表示を行うことができます。PipelineManager1がフローの所有者であれば、これらのアクションを実行できます。

◆不正解の選択肢の補足説明：

A. クラウドフローの優先度を設定します：フローの優先度設定は、特定の環境やポリシーによって制限される場合があります。所有者であっても常に設定できるとは限りません。

D. DLPポリシーをオーバーライドします：DLP (Data Loss Prevention) ポリシーのオーバーライドは、通常、管理者権限を持つユーザーのみが実行できます。

E. 所有者の接続認証情報を変更します：所有者の接続認証情報の変更は、セキュリティ上の理由から所有者自身のみが行える操作です。他の所有者が変更することはできません。

問5

MaintenanceScheduler クラウド フローのデスクトップ アクションを構成する必要があります。

どの 2 つのアクションを実行する必要がありますか?それぞれの正解は、解決策の一部を示しています。

【選択肢】

A. デスクトップ用 Power Automate を起動します。

B. クラウド フローのデスクトップ フロー アクション設定に移動します。

C. [タイムアウト] プロパティを選択し、期間を P20M に更新します。

D. [タイムアウト] プロパティを選択し、期間を PT20M に更新します。

E. デスクトップ用 Power Automate でマシン設定を選択します。

問5（解答）

B. クラウド フローのデスクトップ フロー アクション設定に移動します。

D. [タイムアウト] プロパティを選択し、期間を PT20M に更新します。

【解説】

◆正解の理由：

B. クラウドフローからデスクトップフローのアクション設定にアクセスし、タイムアウトなどの設定を行う必要があります。

D. タイムアウトプロパティは、ISO 8601形式で指定する必要があります。PT20Mは20分を表す正しい形式です。

◆不正解の選択肢の補足説明：

A. デスクトップ用 Power Automate を起動するだけでは、クラウドフローのアクション設定は変更できません。

C. タイムアウトの形式がISO 8601形式ではありません。P20Mという記述では、Power Automateは期間を正しく認識できません。

E. デスクトップ用 Power Automate のマシン設定は、クラウドフローのアクション設定とは異なります。

問6

RailStatusUpdater クラウド フローを構成する必要があります。

どうすればいいでしょうか？

【選択肢】

A. JavaScript 関数を作成して、デスクトップ フロー内の各アクションの実行モード値を更新します。

B. 各デスクトップ フロー アクションを手動で更新して、実行モードを変更します。

C. デスクトップ フローを作成して、クラウド フロー内の各アクションの実行モード値を更新します。

D. 環境変数を作成します。各デスクトップ フロー アクションを更新して変数を読み取ります。

問6（解答）

D. 環境変数を作成します。各デスクトップ フロー アクションを更新して変数を読み取ります。

【解説】

◆正解の理由：

環境変数を使用することで、デスクトップフロー内のアクションの実行モードを動的に変更できます。これにより、RailStatusUpdater クラウドフローの構成要件を満たすことができます。環境変数を更新するだけで、複数のアクションの動作を一度に変更できるため、管理が容易になります。

◆不正解の選択肢の補足説明：

A. JavaScript 関数を作成して、デスクトップ フロー内の各アクションの実行モード値を更新します：

デスクトップフロー内でJavaScript関数を直接使用してアクションの実行モードを更新することは一般的ではありません。また、Power Automate Desktop の機能範囲外である可能性があります。

B. 各デスクトップ フロー アクションを手動で更新して、実行モードを変更します：

この方法は、アクションの数が少ない場合は実行可能ですが、RailStatusUpdater クラウドフローのようにアクション数が多い場合には、時間がかかり、エラーが発生しやすくなります。保守性も低いです。

C. デスクトップ フローを作成して、クラウド フロー内の各アクションの実行モード値を更新します：

デスクトップフローで別のデスクトップフローのアクションの実行モードを直接更新することはできません。このアプローチは実現不可能であり、目的を達成できません。

問7

デスクトップ フローを使用する自動化ソリューションがあります。このフローは、ユーザーのマシンに保存されているファイルからデータを読み取り、そのデータをアプリケーションに書き込みます。別のユーザーのマシンに接続されている環境にソリューションをインポートします。

ユーザーはフローが失敗したと報告します。アラートは、ファイルへのパスが存在しないことを示します。ファイルがユーザーのデスクトップに存在することを確認します。

問題を解決する必要があります。

どうすればいいでしょうか？

【選択肢】

A. ファイルをユーザーのドキュメント フォルダーに移動します。

B. ファイルを削除して再作成します。

C. ファイルをユーザーの OneDrive ストレージに移動します。

D. ファイルの場所を、サインインしているユーザーに依存しない特定のパスに変更します。

問7（解答）

D. ファイルの場所を、サインインしているユーザーに依存しない特定のパスに変更します。

【解説】

◆正解の理由：

デスクトップフローは特定のユーザーの環境に依存しないように設計する必要があります。ユーザーのデスクトップなど、サインインしているユーザーに依存するパスを使用すると、他のユーザーの環境でフローが実行された場合にファイルが見つからずエラーが発生します。サインインしているユーザーに依存しない特定のパス（例：C:¥data など）を使用することで、どのユーザーがフローを実行しても一貫してファイルにアクセスできるようになり、問題を解決できます。

◆不正解の選択肢の補足説明：

A. ファイルをユーザーのドキュメント フォルダーに移動します。

ドキュメントフォルダもユーザー固有のパスであるため、別のユーザーの環境では同様の問題が発生する可能性があります。

B. ファイルを削除して再作成します。

ファイルを削除して再作成しても、ファイルの保存場所がユーザー固有の場所であれば、問題の根本的な解決にはなりません。別のユーザーの環境に移行した場合に再び同様の問題が発生します。

C. ファイルをユーザーの OneDrive ストレージに移動します。

OneDrive ストレージもユーザー固有の場所であるため、別のユーザーがフローを実行するとアクセスできず、同様の問題が発生します。また、デスクトップフローからOneDriveにアクセスするための適切な設定も必要になります。

問8

注: この質問は、同じシナリオを示す一連の質問の一部です。このシリーズの各質問には、指定された目標を達成できる可能性のある独自の解決策が含まれています。一部の質問セットには複数の正しい解決策が含まれる場合がありますが、他の質問セットには正しい解決策がない場合があります。

このセクションの質問に回答すると、その質問に戻ることはできません。そのため、これらの質問はレビュー画面には表示されません。

2 つの行更新アクションを使用して Microsoft Dataverse と対話するクラウド フローを作成しています。これらのアクションはどちらも相互に依存しません。

フローを完了するために必要な処理時間を最小限に抑える必要があります。

クラウド フローにアクションを実装する必要があります。

解決策: do until ループを作成します。

解決策は目標を達成できますか?

【選択肢】

A. はい

B. いいえ

問8（解答）

B. いいえ

【解説】

◆正解の理由：

do until ループは、条件が満たされるまでループ処理を繰り返すため、2つの独立した行更新アクションを並行して実行することによる処理時間の短縮には貢献しません。むしろ、ループの条件判定のオーバーヘッドが増える可能性があります。

◆不正解の選択肢の補足説明：

A. はい：do until ループは逐次的な処理を行うため、並行処理による時間短縮には適していません。そのため、目標を達成することはできません。

問9

あなたは会社のためにデスクトップ フローを開発しています。

ターゲット アプリケーションで実行しているステップを記録するには、レコーダーを使用する必要があります。

レコーダーはどの録音モードを使用しますか?答えるには、適切な録画モードを正しいターゲット アプリケーションにドラッグします。各記録モードは、1 回だけ使用することも、複数回使用することも、まったく使用しないこともできます。コンテンツを表示するには、ペイン間で分割バーをドラッグするか、スクロールする必要がある場合があります。

①ウェブブラウザ

②ウェブブラウザ内のiFrame

③Javaアプレット

④Windowsアプリケーション

【選択肢】

A. 標準

B. 画像ベース

C. ウェブ

問9（解答）

①：A. 標準

②：C. ウェブ

③：B. 画像ベース

④：A. 標準

【解説】

◆正解の理由：

標準モードは、ウェブブラウザ以外の一般的なWindowsアプリケーションの記録に適しています。ウェブモードは、ウェブブラウザ内の要素を正確に識別し、記録するために設計されています。画像ベースモードは、要素を正確に識別できない場合や、Javaアプレットのように標準的な方法でアクセスできない要素を記録するために使用されます。

◆不正解の選択肢の補足説明：

A. 標準：ウェブブラウザやiFrame内の要素を記録するのには適していません。画像ベースモードが必要な場合もあります。

B. 画像ベース：Windowsアプリケーションやウェブブラウザ内の要素を記録することも可能ですが、標準モードやウェブモードが利用できる場合は、そちらの方がより正確で効率的です。

C. ウェブ：ウェブブラウザ以外のアプリケーションの記録には適していません。

問10

デスクトップ フローを使用する自動化ソリューションがあります。このフローは、UserA のマシンに保存されているファイルからデータを読み取り、そのデータをアプリケーションに書き込みます。UserB のマシンに接続されている環境にソリューションをインポートします。

UserB は、フローが失敗したことを報告します。アラートは、ファイルへのパスが存在しないことを示します。ファイルが UserB のデスクトップに存在することを確認します。

問題を解決する必要があります。

ユーザーBは何をすべきでしょうか?

【選択肢】

A. ファイルをユーザーのドキュメント フォルダーに移動します。

B. ファイルの場所を、サインインしているユーザーに依存しない特定のパスに変更します。

C. プロセスがファイルを見つけられない場合に再試行するようにアクションを変更します。

D. ファイルのアクセス権を変更して、PAD プロセスの読み取り操作を許可します。

問10（解答）

B. ファイルの場所を、サインインしているユーザーに依存しない特定のパスに変更します。

【解説】

◆正解の理由：

デスクトップフローは特定のユーザーの環境に依存しないように設計する必要があります。ファイルの場所をユーザーに依存しない特定のパス（例：C:¥Data¥)に変更することで、UserAとUserBの環境の違いによるエラーを回避できます。

◆不正解の選択肢の補足説明：

A. ファイルをユーザーのドキュメント フォルダーに移動します。：ドキュメントフォルダもユーザー固有のパスであるため、UserBの環境では同様の問題が発生する可能性があります。

C. プロセスがファイルを見つけられない場合に再試行するようにアクションを変更します。：これは根本的な解決策ではありません。ファイルが見つからない原因を解決する必要があります。

D. ファイルのアクセス権を変更して、PAD プロセスの読み取り操作を許可します。：アクセス権の問題ではない場合、この変更は問題を解決しません。ファイルパスが存在しないことが問題なので、アクセス権を変更しても意味がありません。